

『Check → Action』 結果を分析して、次の目標を再設定しよう!

～基礎診断カテスト(進路マップ)～ 進路指導部・数学科 喜多 祐介

6/9(水)に受験した進路マップの結果である「個人診断レポート」は、もう確認しましたか。教科の学力を測る GTZ(学習到達ゾーン)の数値だけを見て、一喜一憂しているだけの振り返りでは、次のアクションには繋がりません。このレポートには、みなさんの教科の学力以外の情報が満載の結果が掲載されています。下の図1を使って「個人診断レポート」の見方を紹介します。

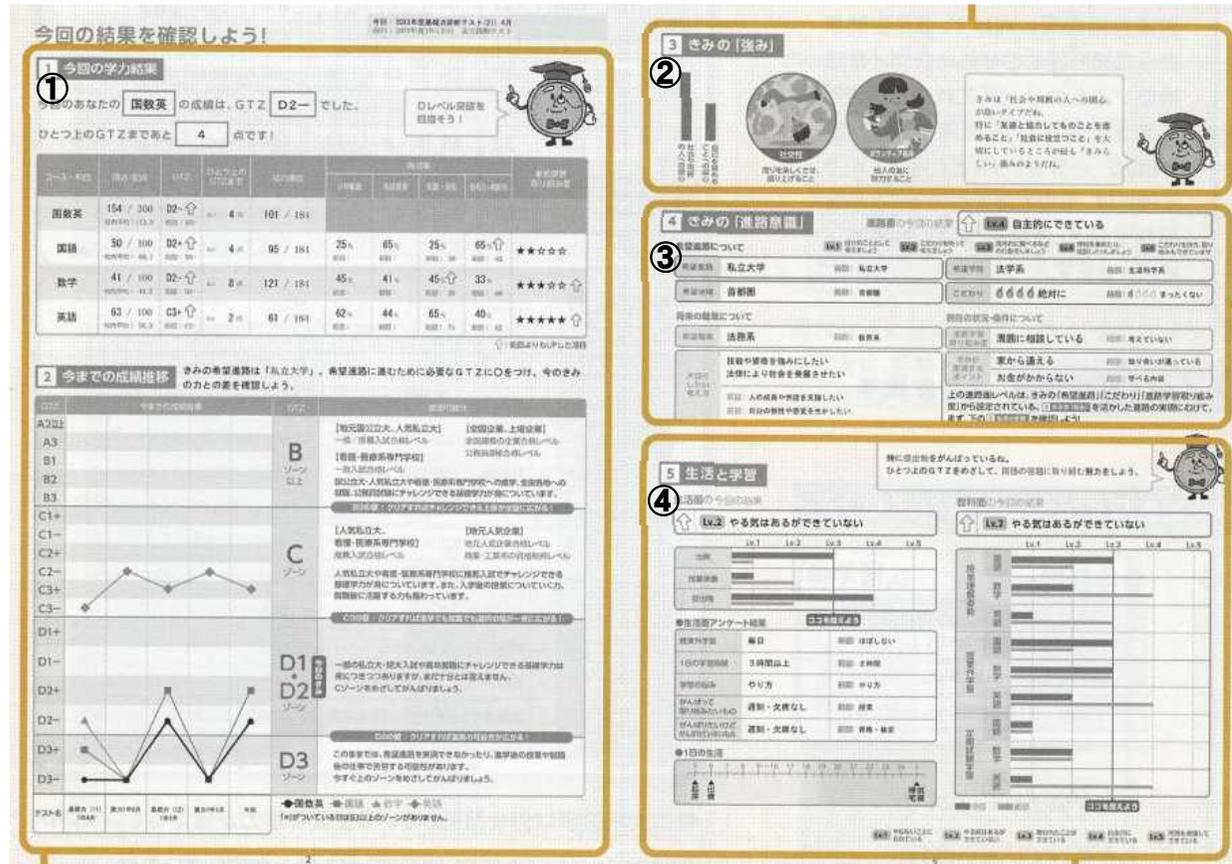


図1 個人診断レポート P. 2-3

①:学習結果の振り返る(GTZ)

全体得点に加えて、出題範囲別での得点率、知識・技能、思考力・判断力の得点率や事前学習の取り組み度を振り返ることができます。

⇒得手不得手の教科・単元を把握するとともに、事前の取り組みが計画的及び目的意識を持って行うことができたのか振り返りましょう。

②:強みを意識する(自我同一性※1)

アンケートの回答結果から分かるあなたの考え方の傾向・特性を「強み」を、イラストを使ってイメージしやすく表示してあります。

⇒自分の強みをしっかり自覚させると同時に自己肯定感を高め(自信を持ち)、自分の強みを生かした進路について考えましょう。

③:進路意識を振り返る(進路面レベル※4)

希望意識、将来の職業、現在の状況・条件についてどう考えていたのかを振り返ることができます。

⇒進路面の結果を5段階のレベルで評価しているため、評価が高ければ継続、低ければ進路について考えるようにしましょう。

④:学習と生活を振り返る(学習力(生活面・教科面)レベル※5)

教科面と生活面それぞれで学習と生活について振り返ることができます。

⇒「ココを超えよう」という目標値にどこまで近づけたのか、生活面で改善点がどこにあるのかなどに気づき、学習習慣、生活習慣の改善のきっかけにしましょう。

※1 自我同一性
生徒一人ひとりの思考や関心が、周囲や社会あるいは自分自身に対してどのように向いているのかを、客観的に把握・分析する指標です。精神分析学者エリク・エリクソンの提唱した考え方にもとづき、「社会性確立度※2」「自我確立度※3」という2つの観点で分類し、生徒の考え方の傾向・特性を知ることによって、学習や進路実現へ効果的に繋げることができます。

※2 社会性確立度 ~ 社会の中で自分の役割を自覚して引き受けようとする度合

※3 自我確立度 ~ 自分の在り方に自信を持ち自分の判断で行動でき主張できるという度合

※4 進路面レベル (下図参照↓)

※5 学習力(生活面・教科面)レベル (下図参照↓)

いかがだったでしょうか? 進路だより第2号のテーマ「PDCAサイクル」「やったらできた」につながっています。確認(Check)後は、是非次の目標に向けて計画を立てて行動(Action)に移しましょう。

